

CONVERSION UNIT
KS-485
取扱説明書



システムサコム工業株式会社

はじめに

この度は、システムサコム工業株式会社の『KS-485』をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
させていただきます。

本ユニットをご使用するにあたって、このマニュアルをお読みの上、正しくお使いいただくようお願いいたします。



注意

誤った取り扱いによって、人が障害を負ったり、本製品またはその他お客様の財産に損害を与える可能性があります。本製品をお使いになる前に、必ず取扱説明書をお読みいただき正しくお使い下さい。

KS シリーズシリアル変換器 Windows 対応のコネクタの推奨ケーブル、または不適合ケーブルについてのご案内



9ピン-----9ピン (例)



9ピン-----25ピン (例)

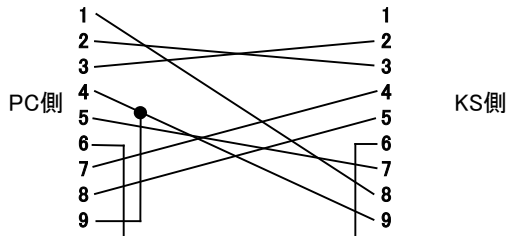


9-25ジェンダーチェンジャー (例)

KS シリーズ Windows 対応のコネクタについて 推奨ケーブルと、不適合ケーブルについてお知らせいたします。本文は、基本的には当社製のものを推奨いたしますが、入手性や既存設備等の問題で他社製品をご使用になる場合の指針とする為のものです。思わぬトラブル回避の為に、ご一読下さいますようお願いいたします。

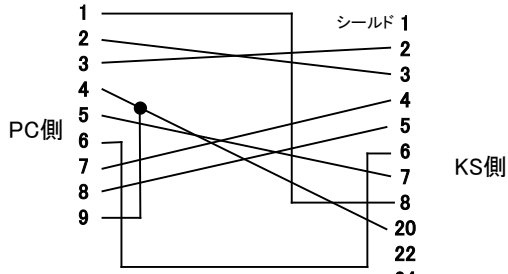
<p>(9ピン——9ピン) WindowsPC側またはピン互換の準拠品(PLC等)</p> <p>KS-1-HS KS-10P-HS</p> <p>推奨ケーブル: 9pin-9pinケーブル CBL12【システムサコム】 他社該当なし</p> <p>不適合ケーブル: 一般製品 出力短絡ケーブル</p>	
<p>(25ピン——9ピン) WindowsPC側またはピン互換の準拠品(PLC等)</p> <p>KS-10PT KS-10PTI KS-485 KS-485PT KS-485PTI KS-232B KS-MP5 KS-M100 KS-C100</p> <p>推奨ケーブル: 9pin-25pinケーブル CBL16【システムサコム】 9pin-25pinケーブル KRS-3102FK等【サンワサプライ殿】 9pin-25pinケーブル KR-MD1等【サンワサプライ殿】 多くのジェンダーチェンジャー(結線要確認) (上記ケーブル長は任意で可)</p> <p>不適合ケーブル: 左図結線ケーブルあるいは出力短絡ケーブル 例) KRS-413XF1K 【サンワサプライ殿】</p>	

■適合 9pin-9pinケーブル結線

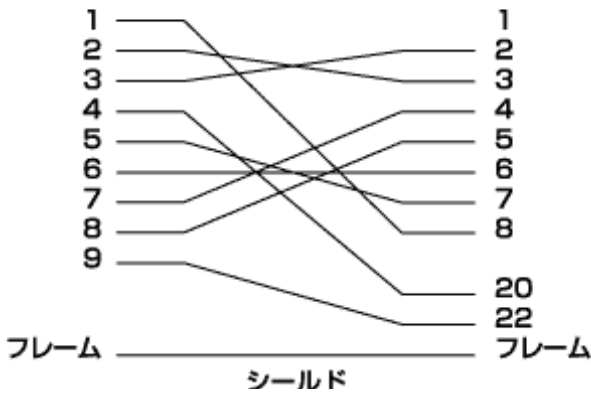


CBL12 【システムサコム】

■適合 9pin-25pinケーブル結線



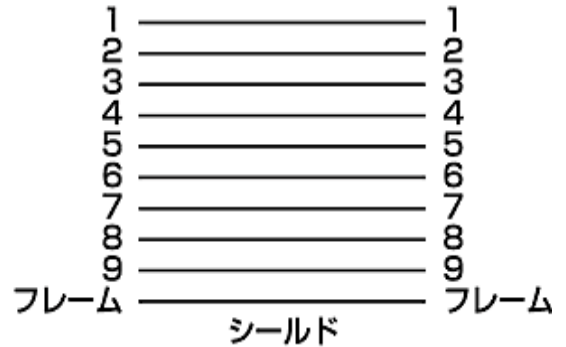
CBL16 【システムサコム】



KR-MD1、KRS-3102FK等 【サンワサプライ殿】

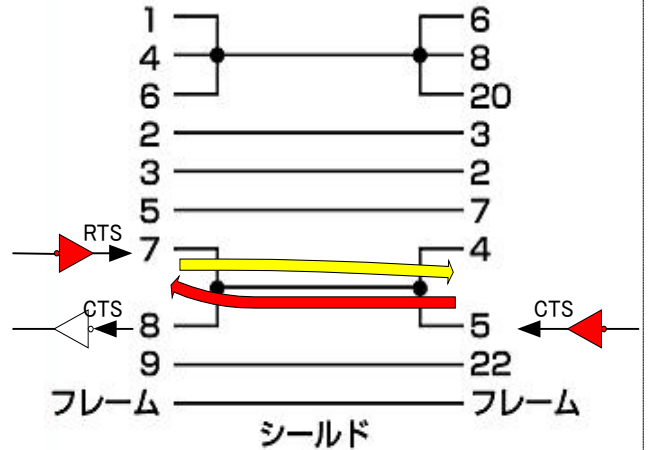
説明：
上図のようにいずれも短絡していないケーブルです。

■不適合 9pin-9pinケーブル結線



KRS-443FM2K 【サンワサプライ殿】

■不適合 9pin-25pinケーブル結線



KRS-413XF1K 【サンワサプライ殿】

説明：
上図のように左RTSと右CTSが不適合ケーブルを使用することで明らかに短絡します。RS232C規格は±12V電圧で論理を決めます。(一般的な実用電圧は±7V程度)一方が他方と異なる論理の場合に電流が流れ込みます。通常RS232C用ICには保護回路が内蔵されており即座に故障することは無いですが、結線としては正しくない接続です。

禁止ケーブル品でのトラブル例:

ケーブルには結線図が付属しているが中には、RS232C側9pin-25pin変換ケーブル結線方法により、RS232CドライバIC出力同士が短絡するものが存在します。

出力同士を短絡させた結果として、RS232CドライバIC出力同士が短絡(例えば、+7Vから-7Vへ)することにより、ドライバIC内で±7V程度のRS232C用電源を生成しているチャージポンプ回路の許容量を越える電流が流れると、同ICの他の出力ピン(TXDライン等)の送出データ電圧が降下や不安定になる事があり、結果として通信異常が発生します。この事は、たとえハードウェアフロー制御を用いない設定にしている場合でも同じIC内であれば問題となります。

またこの症状は、相手機器に搭載されているドライバーICの種類や製造Lot等の特性の差で発生の有無が左右されることが考えられ、もし症状が現れないからと言っても、その後の環境変化や別Lotに症状が発症する可能性はあると思われれます。
なお当社KSシリーズに限らず他社同機能製品においても、このような短絡状態はICの発熱による製品劣化や突然の破損を招く要因になるとも考えられるので、もし上記の不適合ケーブルをご使用の場合は、ケーブル変更を強く推奨いたします。

目 次

1. KS-485の概要と仕様	7
2.内部の動作と制御方法	8
2-1.回線モニター機能による入出力制御	9
2-2.外部コントロール線による入出力制御	10
3.接続方法	11
4.ディップスイッチの設定	12
5.コネクタのピンアサイン	13
5-1 RS-232C側ピンアサイン (共通)	13
コネクタ (DB-25S)	13
5-2 RS-485側ピンアサイン	13
コネクタ (DE-9S)	13
6.参考	14
6-1 ターミネータ	14
6-2 ケーブル	14
6-3 通信規格	15
7.各部の名称と外形寸法	16
8. 回路構成図	17

使用上の注意

- ⚠ 注意** ● 機器の接続やディップスイッチの設定は電源を切った状態で行って下さい。
- 設置場所はノイズ環境を考慮して行って下さい。
 - 設置場所として不適当な、以下のような環境での使用は避けて下さい。
 - ・低温、高温または湿度の高い場所
 - ・ほこりの多い場所
 - ・静電気障害、または強い電磁界の発生する可能性のある場所
 - ・強い振動のある場所
 - ・雨、霧、直射日光のあたる場所
 - ケーブルは高電圧のラインと平行に敷設することを極力避けてください。
データにノイズがのる、もしくは通信できなくなる原因となります。
- ⚠ 注意** ● シャーシからのFGはできる限りアースとして落としてください。
- ⚠ 注意** ● ケーブルを野外に設置する場合は、雷対策としてアースを確実に落とすことをお勧めします。このとき、強電系に詳しい方とご相談なさってください。
- ノイズや雷の影響を軽減するためには、電源をUPS(無停電電源)等の安定化電源を用してください。
- ⚠ 注意** ● 長距離通信の場合、お互いのフレームグランドに電位差が発生して、うまく通信できないことがありますので、お互いのフレームグランドを極力つないで下さい。この状態を長く続けると本機や周辺に悪影響を及ぼしますので注意してください。
- 故障が発生したときはすぐに電源プラグを抜き、お買い求めの販売店か当社までご連絡ください。
 - 当社以外で改造・修理を行われた場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。
 - 本機および本書の仕様は予告無く変更することがあります。

製品に関するお問い合わせは

システムサコム工業株式会社
 〒130-0026 東京都墨田区両国 1-12-10 カネオカビル 6F
 TEL : 03-6659-9261 FAX : 03-6659-9264

1. KS-485の概要と仕様

本ユニットは、RS-232CとRS-485間半二重シリアル通信において、双方向に信号をコンバートすることによって長距離通信のネットワーク化をローコストに実現することができます。

特長

- ① データ線を半二重で双方向に通信するバスライン構成
- ② 送信1台に対して受信32台までのマルチ通信が可能
- ③ 最大1.2kmの長距離通信が可能
- ④ システム構成がローコスト
- ⑤ 軽量・小型(ほぼタバコ箱大)

仕様

RS-232Cインターフェース

最大伝送速度	115.2kbps
最大伝送距離	15m
出力	3k Ω 負荷にて $\pm 5V$ 以上
入力	入力抵抗3k Ω 以上
コネクタ	Dsub25ピン(メス)

RS-485インターフェース

最大伝送速度	115.2kbps (RS-232C側制約による)
最大伝送距離	1.2km
接続ユニット数	32台(マルチポイント、マルチドロップ)
出力	平衡型、54 Ω 負荷にて $\pm 1.5V$ 以上
入力	平衡型、入力抵抗12k Ω 以上、終端抵抗100 Ω 、 レシーバ感度 $\pm 200mV$ 以上

コネクタ Dsub9ピン(メス)

動作温度、湿度	本体: 0 \sim 70 $^{\circ}C$ 、30 \sim 80% (結露しないこと)
保存温度、湿度	本体: -20 \sim 75 $^{\circ}C$ 、5 \sim 85% (結露しないこと)
電源電圧	DC7.5V \sim 9V

(ACアダプタ DC9V \cdot 500mA)

付属 AC アダプタの動作温度: 0 \sim 40 $^{\circ}C$

消費電流	50mA(受信時)、80mA(送信時)
外形寸法	58 ^W \times 83 ^D \times 19 ^H mm(突起部含まず)
重量	約160g(本体) 約310g(アダプタ)

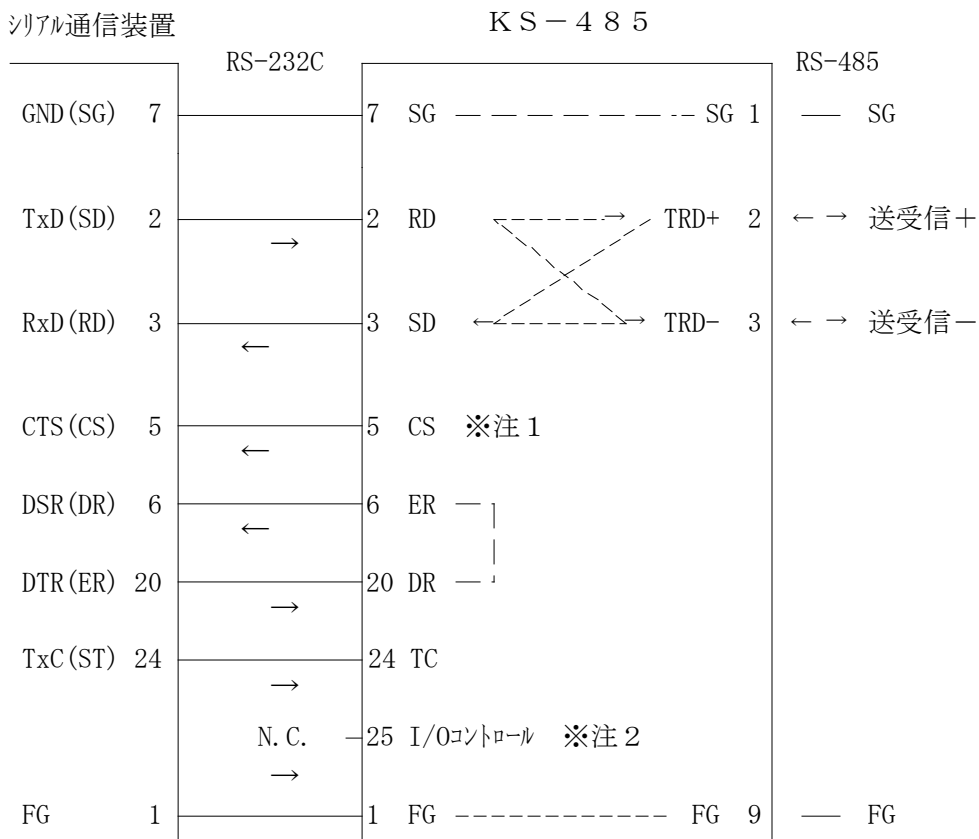
2.内部の動作と制御方法

平衡方式を採用したRS-422インターフェースは長距離・高速伝送が可能ですが送信ラインと受信ラインが区別されていて1：1の通信しかできません。

RS-485インターフェースは入出力ラインを共通にして双方向に通信する半二重通信方式で、バスラインのデータをマルチドロップ形式で共有することが可能です。

RS-485による通信ではホストコンピュータによって各ユニットの送受信をコントロールするソフトウェアが必要となりますが、KS-485はこれを効果的にサポートするために回線モニター機能を装備し、より確実にデータの送受信が行われるように工夫されています。

次に簡単な内部動作に関して記しておきますので参考にしてください。



※注1 KS-485側のCS (送信可)はRS-485ラインからの入力信号が存在するときにホスト側の送信を制御するための信号です。

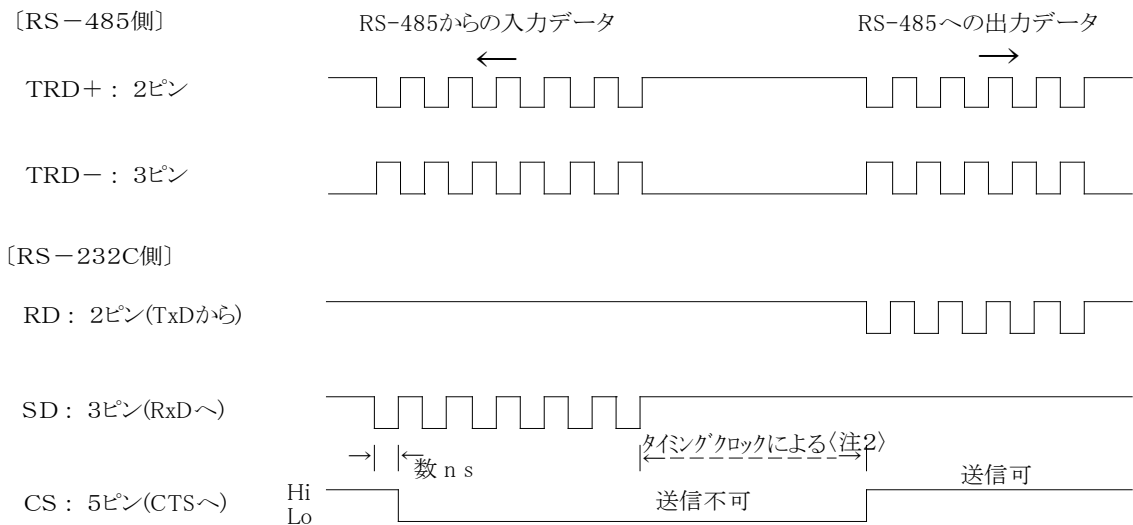
※注2 RS-485ラインの入出力を、別の回路から強制的にコントロールする場合に使用します。

2-1. 回線モニター機能による入出力制御

KS-485はRS-485ラインでのデータの衝突を避けるための回線モニター機能を備えています。〈注1〉

RS-485ラインに外部装置よりデータが入力されると、RS-232CのCS(5ピン)の出力をローレベルにしてホスト側へ送信不可を知らせます。

■送信許可信号のタイミング



- ①電源投入後、RS-232C/RS-485側ともに入力信号が無いとき、RS-485側は自動的に受信待ちの状態(ハイインピーダンス)になり、RS-232C側の送信許可信号(CS)は送信可の状態(ハイレベル)になっています。どちらからの信号も受信待ちの状態です。
- ②RS-232C側からデータが入力されると、そのスタートビットを検知してRS-485側は瞬時に送信状態に切り替わり、データ送信が終了するとRS-485側のデータラインは自動的に入力待ちの状態に戻ります。
- ③RS-485側にデータが入力されると、RS-485側の入力を優先的に確保して受信状態を保ちます。このとき、RS-232C側からデータを入力しても自動的に無効になります。この間、RS-232C側のCS出力をローレベルにしてホストコンピュータ側へ送信不可を知らせます。
- ④RS-485側へのデータ出力が終了すると、具体的にはRS-485ラインから一定期間〈注2〉パルスが入ってこなくなると、RS-232C側のCS出力はハイレベルになりホスト側へ送信可を知らせます。

〈注1〉ホスト側でのソフトウェアによる入出力コントロールは必要となります。

〈注2〉このときの時間間隔はKS-485が持っている内部クロック、または外部からTC(24ピン)に供給されるクロックによって決まります。

■ タイミングクロックの設定

① 内部タイミングを使用する場合

RS-232C側のRD(2ピン)へデータ入力終了した後、16ビット分待ってからRS-485側を入力モードに切り替えます。また、RS-485側へのデータ入力終了後、16ビット分待ってからCS(5ピン)出力を送信可に切り替えます。

内部クロックを使用するときは、ディップスイッチSW5をONとして、SW1~3を転送速度に合わせて設定します。このとき、データの転送速度が設定したボーレートより低くならないようにします。

例えば、転送速度 1200bpsでディップスイッチ 600bpsを設定すると、データ速度に対して切り替わるまでの時間を長く設定することになります。

逆に転送速度 1200bpsでディップスイッチ 2400bpsを設定すると、データ転送速度に対して切り替わるまでの時間が短くなりすぎて適していません。

② 外部タイミングを使用する場合

RS-232C側のTC(24ピン)を通じて外部からクロックを供給します。これは主にホスト側からのTxC(ST1)から受け取ります。このとき、ディップスイッチSW5はOFFに、SW1~3は下記のいずれかを選択します。

- ・データ2バイト分(16ビット長) 転送速度は最高307.2kbpsまで
SW1-OFF/SW2-ON/SW3-ON
- ・データ8バイト分(64ビット長) 転送速度は最高19.2kbpsまで
SW1-ON/SW2-ON/SW3-OFF

切り替わるまでの時間間隔は供給されるクロックにより異なってきます。

2-2. 外部コントロール線による入出力制御

RS-232C側コネクタのRS-485入出力コントロール(25ピン)に外部から信号を入力することによって、RS-485側のデータラインの入出力を制御することができます。

ハイレベル(+3V以上)の場合に、RS-485側は強制的に出力モードに、ローレベル(+0.4V以下)になってから数 μ s以内に入力モードになります。

このとき、ディップスイッチSW1~3はすべてONにして下さい。

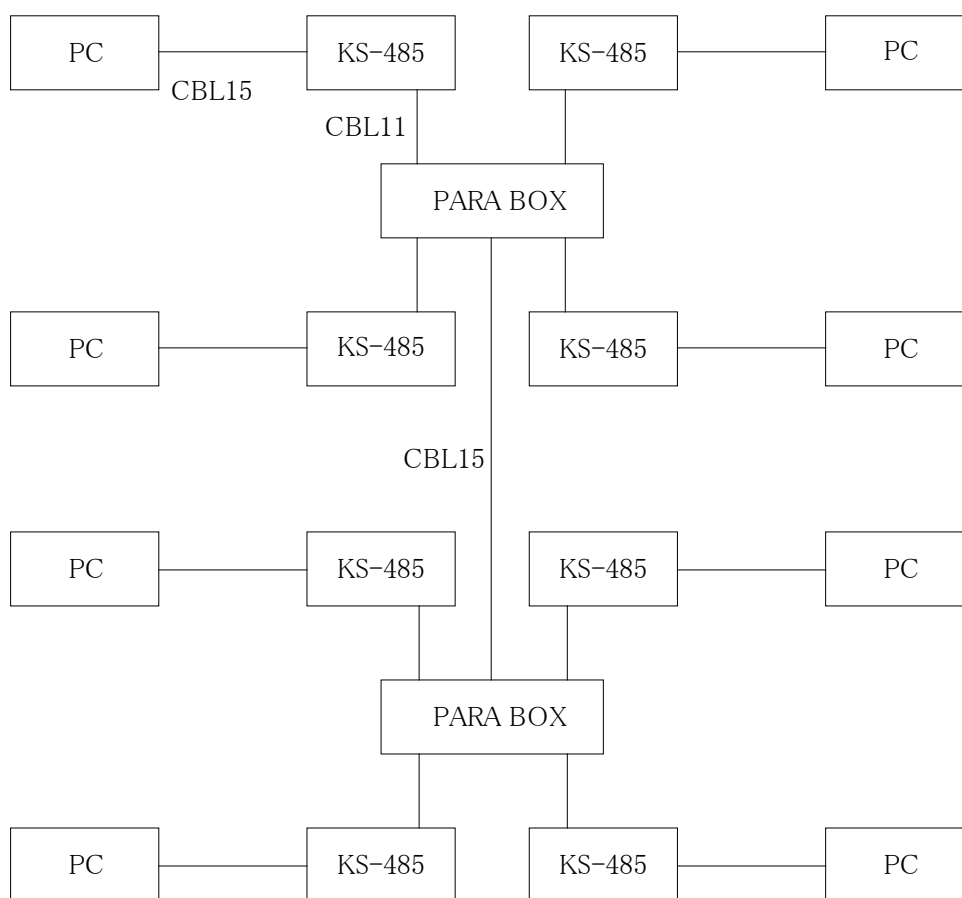
回線モニター機能は使用できなくなります。

3.接続方法

KS-485ユニット本体およびRS-485規格の接続機器が、最大32台まで同一のデータラインに接続できます。マルチドロップ形式で使用する場合は、アドレスおよび手順の制御を行うソフトウェアが必要です。

ネットワーク最長距離の両端2台のKS-485ユニット本体は、内部ターミネータ(終端抵抗 100 Ω)をOnにして使用してください。

KS-485の分岐接続の形態の一例



※ケーブルはできる限り同じ種類のものを用いてください。抵抗値が異なるケーブルを組み合わせますと、うまく通信できないことがあります。

参考 PARA BOX(パラボックス、型名5P-25S、システムサコム製) Dsub25ピンのコネクタが5個並んだコネクションボックス内部は同じピン番号がすべて並列につながっています。

4.ディップスイッチの設定

SW1~3 RS-485の入出力切り替えのタイミングの設定

SW5 回線モニター機能を使用する場合のクロックの供給源の設定

ON :KS-485内部のクロックを使用する

OFF:外部機器(TxCなど)からRS-232C側コネクタに供給する

SW7・8 内部ターミネータ(終端抵抗 100Ω)の設定

マルチドロップで使用する場合、一番遠い距離にある両端2台のみONにして、あとはすべてOFFにします。

RS-422機器と接続する場合は両方ともOFFにします。

SW4・6 未使用

SW1	SW2	SW3	SW5	RS-485の入出力制御の設定		
ON	ON	ON	—	外部コントロール線(RS-232C側25ピン)による入出力制御に設定		
*OFF	*ON	*ON	*ON	ポートレート設定 通常19.2kbps	内部クロックを使用する設定 データ転送速度を目安に設定 (データの転送速度が設定ボーレートより低くならないように設定)	切替時間 64μs×16
ON	OFF	ON	ON	通常 9600bps		128μs×16
OFF	OFF	ON	ON	通常 4800bps		256μs×16
ON	ON	OFF	ON	通常 2400bps		512μs×16
OFF	ON	OFF	ON	通常 1200bps		1.0ms×16
ON	OFF	OFF	ON	通常 600bps		2.0ms×16
OFF	OFF	OFF	ON	通常 300bps		4.1ms×16
OFF	ON	ON	OFF	最大10MHzの16ビット分		外部からのクロックを使用する設定
ON	ON	OFF	OFF	最大10MHzの64ビット分		

SW7	SW8	内部ターミネータの設定
*ON	*ON	終端抵抗(100Ω)を使用する
OFF	OFF	終端抵抗(100Ω)を使用しない

※スイッチのところに、*印の付いたものは初期出荷の設定です。

5.コネクタのピンアサイン

5-1 RS-232C側ピンアサイン(共通)

コネクタ(DB-25S)

ピン	略称	信号名 (DCE表記)	方向
1	FG	フレームグラウンド	—
2	RD	受信データ	入力
3	SD	送信データ	出力
5	CS	送信可	出力
6	ER	データ端末レディ (DR 20ピンと内部で接続)	出力
7	SG	シグナルグラウンド	—
20	DR	データセットレディ (ER 6ピンと内部で接続)	入力
24	TC	タイミングクロック	入力
25	—	RS-485入出力コントロール	入力

※ コネクタはDsub25ピン(メス)になります。

※ RS-232Cケーブルはストレートタイプをご使用ください。(別売)

CBL-15 PC98 25ピンディスプレイ接続用 RS-232C ケーブル

CBL-16 IBM9ピン機器接続用 RS-232C ケーブル

CBL-17 IBM25ピン機器接続用 RS-232C ケーブル

5-2 RS-485側ピンアサイン

コネクタ(DE-9S)

ピン	略称	信号名	方向	機能
1	SG	シグナルグラウンド	—	GNDと接続
2	TRD+	送受信データホット	入出力	データを送受信
3	TRD-	送受信データコールド	入出力	データを送受信
9	FG	フレームグラウンド	—	シャーシ・フレームと接続

※ RS-485ケーブルは接続形態により異なります。接続構成を確認してお問い合わせください。(m単位にて特注製作)

CBL-11 パラボックス(5P-25S)接続用 RS-485 ケーブル

CBL-43 KS-485 相互接続用 RS-485 ケーブル

参考

RS-232C側IC MAXIM MAX232 相当(消費電力 15mA以下)

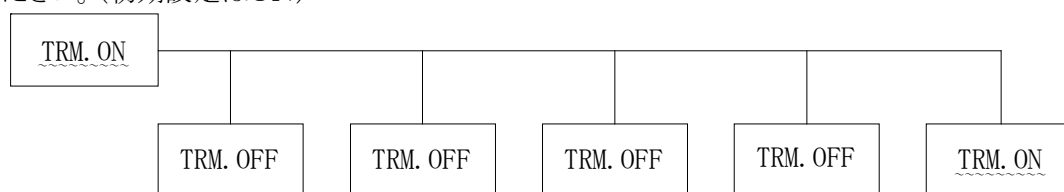
RS-485側IC TI SN75176 相当(消費電力 15mA以下)

6. 参考

6-1 ターミネータ

RS-485は接続上の両端となる機器にターミネータ(終端抵抗)をつけなければいけません。ただし複数接続を行った場合は、両端以外のターミネータは重複して通信できなくなりますので、最初と最後の機器の2台をターミネータON、残りすべてはターミネータOFFにする必要があります。

KS-485はディップスイッチでこれらのON/OFFが行えますので状況に応じて切り換えてください。(初期設定はON)



また、データの伝送は接続機器やケーブルのインピーダンスがマッチングしていることが理想の状態ですが、組み合わせによってはインピーダンスが大きく食い違う場合もあります。この場合は、ターミネータをONにする位置を替えた方が良いときもありますので、設置する際に調整を行ってください。

6-2 ケーブル

RS-485で使用するケーブルは、基本的には外被シールドの丸形ツイストペアケーブルをご使用ください。(UL2343・UL2448・UL2464等)

長距離通信の場合は特にローインピーダンスのものを選んでください。

比較的短い距離で通信する場合などは通常の多芯ケーブルでも可能です。

ケーブルの選択は、通信距離・伝送速度・ノイズ環境・接続数により異なります。

ただし、あまりにも太い線材や細い線材は避けてください。

参考 RS-232Cの信号の名称(DTE表記)

1ピン : Frame Ground (FG)

2ピン : Transmitted Data (TxD) ・Send Data (SD)

3ピン : Received Data (RxD・RD)

4ピン : Request To Send (RTS・RS)

5ピン : Clear To Send (CTS・CS)

6ピン : Data Set Ready (DSR・DR)

7ピン : Signal Ground (GND・SG)

8ピン : Data Career Detect (DCD・CD)

15ピン : Transmitter timing Clock (TxC2) ・Send Timing (ST2)

17ピン : Receiver timing Clock (RxC) ・Receive Timing (RT)

20ピン : Data Terminal Ready (DTR) ・Equipment Ready (ER)

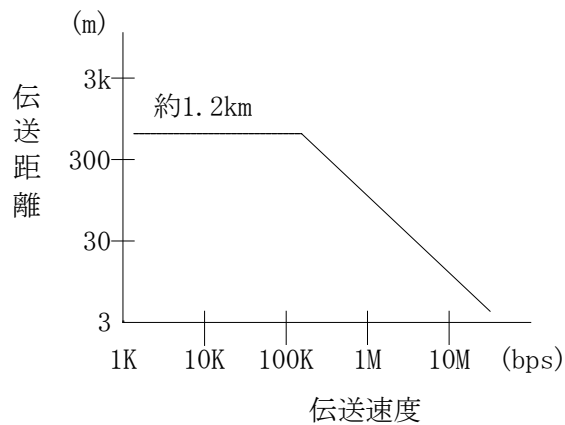
22ピン : Ring Indicator (RI)

24ピン : Transmitter timing Clock (TxCl) ・Send Timing (ST1)

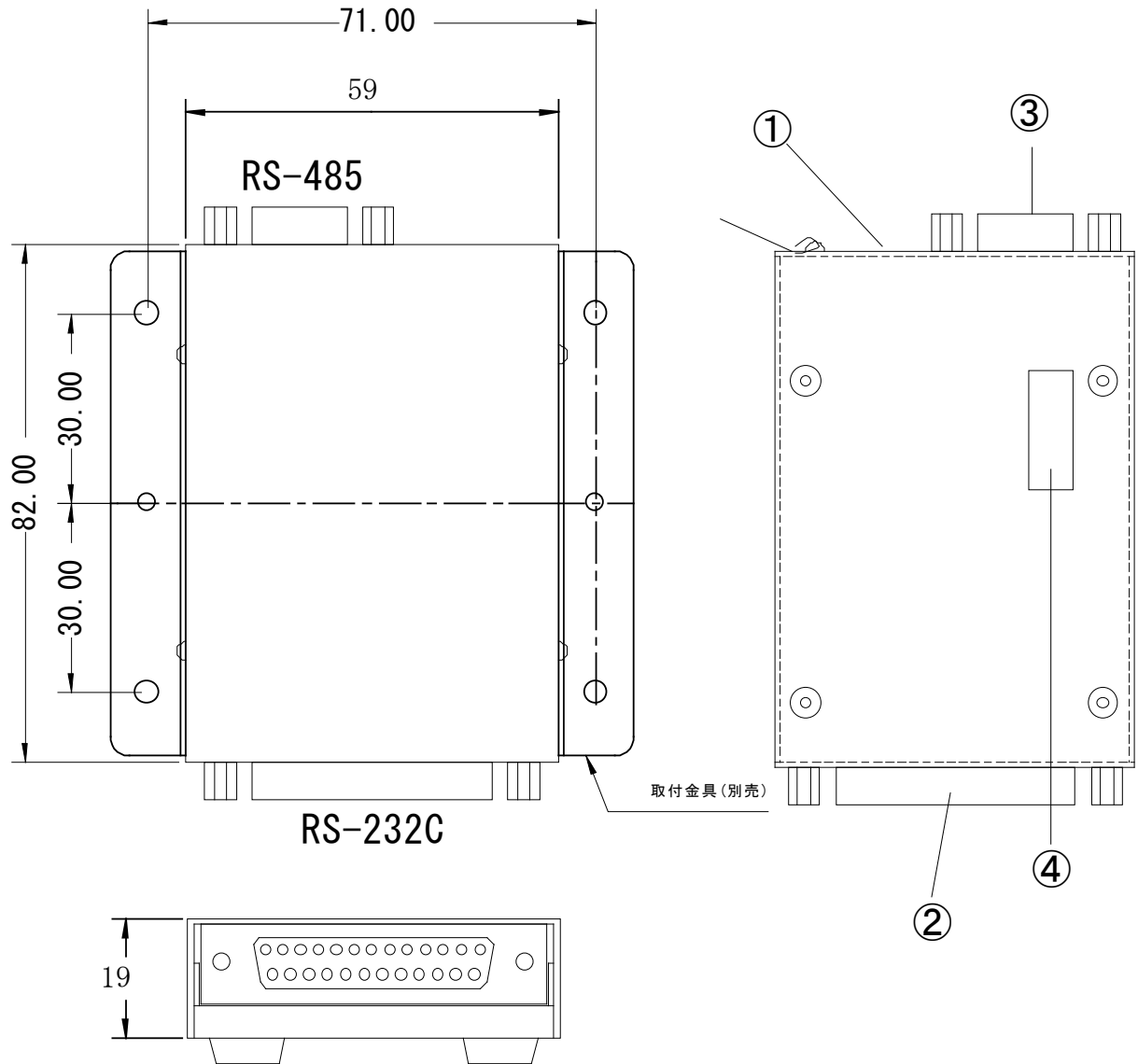
6-3 通信規格

規格	RS-232C (EIA-232D)	RS-485
規格の範囲	<ul style="list-style-type: none"> 電気的仕様 ピンアサイン コネクタ 	<ul style="list-style-type: none"> 電気的仕様のみ
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 多数の装置が装備 全二重通信 規格では 最大伝送速度19.2Kbps 最大伝送距離15m 	<ul style="list-style-type: none"> 平衡伝送のため長距離高速の伝送が可能 半二重のバス構成 規格では 最大伝送速度10Mbps 最大伝送距離1.2km
接続数	<ul style="list-style-type: none"> ポイントツウポイント 1:1 	<ul style="list-style-type: none"> マルチドロップにより、ドライバ1台に対して、レシーバ32台まで可能 1:32

参考図 RS-485/RS-422の伝送速度と伝送距離の関係
(グラフは両対数目盛り)

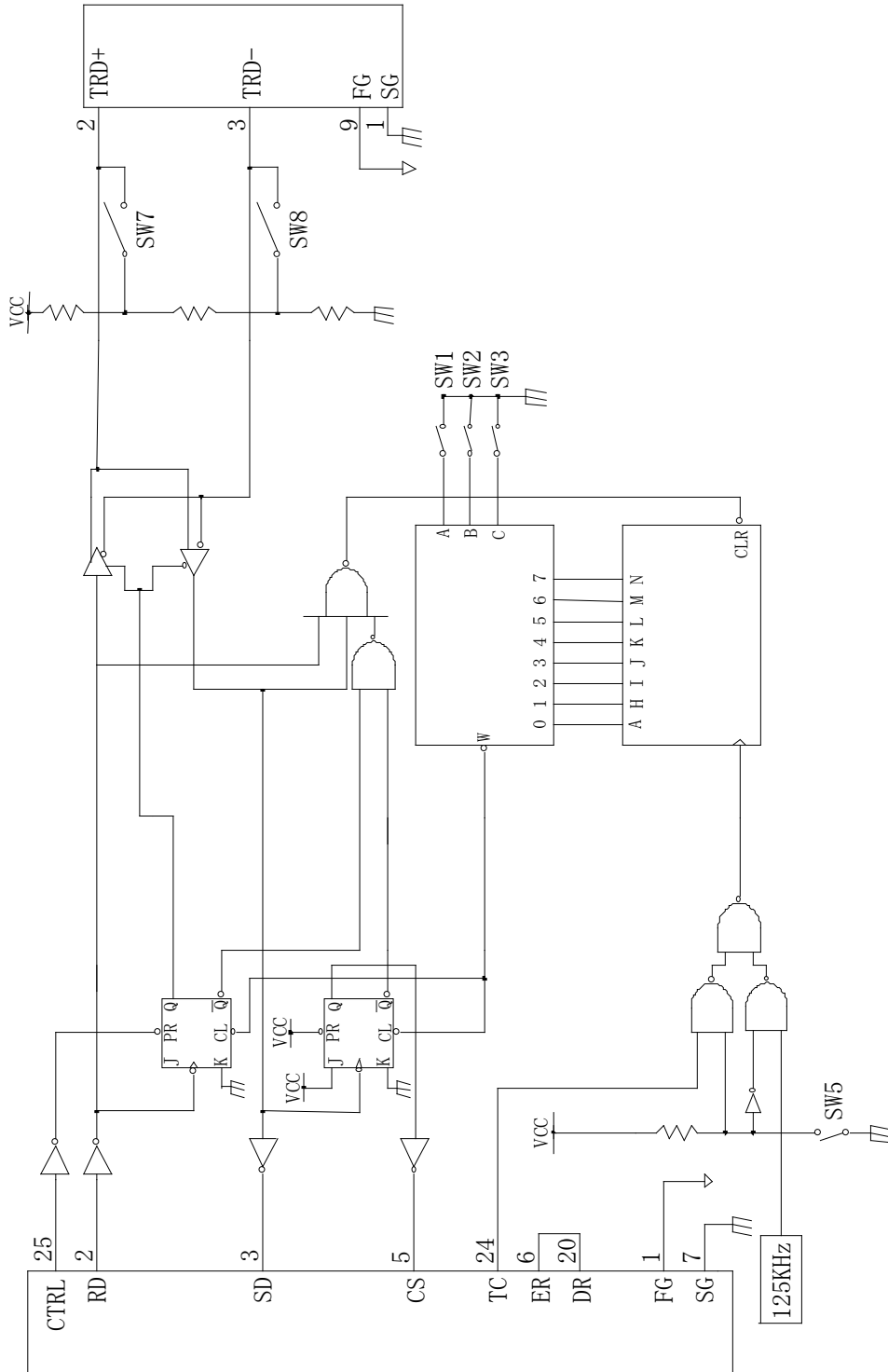


7.各部の名称と外形寸法



- ① DC INコネクタ
付属のACアダプタを接続するコネクタ
KS-485に電源を供給します。
- ② RS-232Cコネクタ(Dsub25ピンのメス)
- ③ RS-485コネクタ(Dsub9ピンのメス)
- ④ デイップスイッチ
主に、RS-232C側およびRS-485側の接続仕様を変更します。

8. 回路構成図



保証規定

1. 保証期間内に正常な使用状態において、万一故障した場合は、保証規定に従い無料で修理いたします。
2. 保障期間内でも次のような場合は有料修理になります。
 - ① 保証書をご提示されないとき。
 - ② 保証書の所定事項の未記入、字句を書き換えられたもの、および販売店の表示の無いとき。
 - ③ 火災・地震・水害・落雷・その他の天災、公害や異常電圧による故障および損傷。
 - ④ お買上げ後の、輸送、移動時の落下など、お取り扱いが不適当なために生じた故障および損傷。
 - ⑤ 取扱説明書に記載の使用方法および注意に反するお取り扱いによって発生した故障および損傷。
 - ⑥ 部品の取り外しおよび再挿入、または指定以外の部品を使用したことにより生じた故障および損傷。
 - ⑦ 他の機器との接続が原因で本製品に生じた故障および損傷。
 - ⑧ その他、明らかに設置条件・設置場所の不備による事故によって生じた故障および損傷。
 - ⑨ 指定のサービス部門以外で半田付けなどの改造をされたとき。
 - ⑩ 消耗品類の交換。
3. 修理を依頼される場合はお買上げの販売店まで本保証書を添えてご持参下さい。やむをえず送付される場合は送料をご負担願います。
4. 本装置の使用により発生した問題について、当社はその責を負いません。
5. 本保証書は再発行しませんので必ず保管しておいてください。

年 月 日	サービス内容	担当者

保証書

品名	RS-232C⇔RS-485 変換ユニット
型名	KS-485
保証期間	お買上げ日から 1年
お買上げ日	西暦 年 月 日
お客様	ご住所 〒
	フリガナ
	お名前
	電話番号 ()

本保証書は裏面記載の内容により無料修理を行うことをお約束するものです。

本書は日本国内で使用される場合にのみ有効です。

This warranty is valid only in Japan.

本書は再発行いたしませんので、大切に保存してください。

販売店	住所・店名・電話番号
	印

製造・販売元 システムサコム工業株式会社

本社 〒130-0026

東京都墨田区両国 1-12-10

カネオカビル6F

TEL 03-6659-9261 FAX 03-6659-9264

KS-485

取扱説明書

発行日	1994年6月
発行責任者	システムサコム工業株式会社 〒130-0026 東京都墨田区両国1-12-10 カネオカビル6階
PHONE	03-6659-9261(代表)
FAX	03-6659-9264

Printed In Japan

- 本機または本書は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。あらかじめご了承ください。
- なお、本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権その他の権利については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本はお取り替えいたします。



システムサコム工業株式会社

〒130-0026 東京都墨田区両国1-12-10

カネオカビル 6F

TEL 03-6659-9261 FAX 03-6659-9264

<http://www.sacom.co.jp/>

20110525